

# BEAR'S LETTER

## Winter Issue



### 新

年明けましておめでとう  
ございます！

皆様2025年はどんな年だったでしょうか。のぼりべつクマ牧場では様々な出来事があり、色々な意味で成長の年となりました！成長といえば、去年生まれの子グマ達も立派に大きくなりました。昨年12月29日に1年間過ごした子グマ牧場を卒業し、成獣達が暮らすバックヤード獣舎にお引越ししました。子グマ牧場を卒業したことでお客様には寂しい思いをさせてしまうかもしれませんが、今後子グマ達に会えるイベントも実施していく予定なので楽しみに！



### 昨

年7月14日から、エゾリスの「オベリ」と「エゾマル」の同居を開始しました。同居練習自体は6月13日から実施しており、1か月の練習を経て一緒に生活できるようになりました。オス同士なのでケンカが起きてしまわないかドキドキしながら観察していましたが、餌を食べながら追いかけっこをしたり、お互いの匂いを嗅ぎ合ったり、相性が良い様子を見たときはホッと胸をなでおろしました。

エゾリスたちが活発に動き回っているのは午前10時〜正午なので時間を見計らってリスの杜にお越しください！







今年も高齢個体の冬こもり（疑似冬眠）を実施していきます。12月中旬から本格的な冬こもりを行い、ワラや消防ホースなどの巣材をヒグマ達に提供しました。巣材を与えると各々前足でいじったり、粉々に噛み砕いてフカフカに整えたりする行動が見られ、しばらくすると固まって眠る様子が観察できました。毎年恒例の冬支度が始まると「ああ、今年も冬が始まったなあ」としみじみ思います。

若いヒグマは冬場でも活発に雪の上を走り回り遊ぶ個体が多いですが、高齢個体になると活動量が低下するので冬こもりを行っています。野生個体と違い、春まで起きない訳ではなく時折水を飲みに起きてきたりすることもあります。時々SNSでも冬こもりの様子をお届けしますのでお楽しみに！



巣材を整える様子＝12月15日



ワラの上で固まって眠る様子＝12月15日

## 高橋獣医が語ります！

のぼりベツクマ牧場で獣医として働くためには様々な感覚を鍛えなければなりません。皆様にもクマ牧場で働く獣医が何を感じ取っているのかお伝えします。

まず一番重要なのは視覚です。ヒグマ達に怪我がないか、変な歩き方をしていないか、元氣そうに動いているか、餌は食べられているか、しっかりと見ます。また、異常な糞が無い、出血の跡が無い、獣舎内もよく見えています。

そして意外に役立つのは嗅覚と聴覚です。例えば、傷口から膿の匂いがしていないか、異常な便から血の匂いがしていないかなどを確認します。嗅覚を鍛えれば目で見えない異常を察知することでもできるようになります。また、どこかでうなり声かしていないか、荒い呼吸の音がしないかなども聞き取ることが出来れば、目で見るより早く異常に気づけます。

ここまでで紹介した感覚を利用して異常を見つけた場合には、麻酔をかけて検査をすることもあります。その時は触覚も利用しています。血管を探したり、太り具合を確認したり、腫れ物がないかを探したりと全身をくまなく触っています。

また、五感と言いましたが、実は味覚は使用したことはありません。先輩獣医さんの話だと、恋の季節のオスヒグマは背中から甘い匂いがするんだとか。メスの尿も甘い匂いがするんだとか。本当に甘いのか確かめる勇氣は私にはありません。

いつか第六感が芽生えてヒグマたちの気持ちかわかる日が来ないものでしょうか。お腹が痛いとか、右足が痛いとか、なんか怠いとか、そのくらいでも聞き取れたら、もっと早く治してあげられます。そんな日が来るまでは五感全部でヒグマたちの異常を感じとってあげようと思います。

## 編集担当の呟き

皆様お久しぶりです！園内情報誌編集担当飼育員Iです。

以前発行していた「飼育員は見たべあ」の100号を発行してからもう3か月が経過し、時の速さをひしひしと感じます。

また、今回から年4回の発行になり心機一転という事で、ガラッとタイトルを変えてみました。イメージはおしゃれなカフェに置いてあるフリーペーパーです。気に入っていただけるとすごく嬉しいです。そして、人気だった4コマ漫画も復活しました！

色々と盛りだくさんな「Bear's Letter」を引き続きよろしく願います！

それではまた4月号でお会いしましょう！さよなら！



麻酔をかけて体の大きさを測定＝5月

